

味 香 一 だ よ り No. 4

発行者：三日市小学校区まちづくり協議会

連絡先：大原 栄子 ☎ 0721-63-7610

協力：河内長野市役所自治協働課

みんなでつくろう 味・香・一（あじ・かおり・いち）のまちに！

三日市小学校区まちづくり協議会

平成 26 年 9 月 23 日、市内第 8 番目の「まちづくり協議会」として発足しました。その活動について「味香一だより」(No. 1 ~ No. 3) で紹介してまいりました。

本号では、現在取り組んでおります企画と活動の中核となる部会活動を中心にご報告します。

「多聞丸」を地域のシンボルに

三日市町駅北に架かる陸橋は「楠公通学橋」と名付けられています。楠公とはもちろん楠木正成のことです。楠木正成の幼名は「多聞丸」で 6 歳から 16 歳までこの河内長野市で育ちました。

観心寺の中院(楠公学問所)で僧龍覚を師匠とし勉学を学び、さらに加賀田の大江時親より兵法と漢学の教えを受け、16 歳の時にこの地で元服し「正成」と名乗りました。

多聞丸は観心寺から現三日市町駅前の楠公通学路(橋)を通り大江時親邸までの約 8 キロを一日も休まず馬で通ったと伝えられています。ここで習った教育は楠木正成の人間形成の「柱・骨」となり正成の精神を創ったと言っても過言ではありません。

そこで、この「多聞丸」を地域のシンボルとして多くの人に知ってもらい、三日市の活性化と知名度アップを図る目的で広報用ポスター「多聞丸」を作成いたしました。



大江時親に学ぶ多聞丸



建て掛けの塔と本堂（観心寺）

学びを通した人づくり

河内長野市では平成 28 年度より第 5 次総合計画が推進されていますが、そこで河内長野市の主要な課題の一つとして「学びを通した人づくり」が挙げられています。さらに三日市小学校区の地域づくりの目標としては「地域資源を活かした賑わいとおもてなしのまちづくり」があります。

地域資源としての多聞丸の学びの道(楠公通学路)を辿ることにより「学びを通した人づくり」につながる活動を推進していきたいと思います。例えば三日市の駅前に「多聞丸の石塔」を建て、子どもたちが親しめる場所になればと考えます。

私たちが地域別計画の中に掲げる「地域のめざす将来像」は次の通りです。

「豊かな自然、歴史・文化が織りなす 賑わいと人情のあふれるまち 三日市」

ふれあい部会

ふれあい部会では小学校の始業式・終業式などでの「あいさつ運動」や学校行事の「てくてくウォークラリー」への協力をしています。また今年度は小学校の子どもたちに対して「三日市のいいとこいいもの見つけた！」の企画をしました。小学校での展示の後には三日市公民館でも展示をして、地域の皆さんにも見ていただくことができました。

これからも、「子どもも大人もお互いに支えあえるまち」を目標に活動していきたいと思っています。ご協力をお願いします。

あいさつ運動の様子



公民館展示の説明文

三日市小学校区まちづくり協議会では
三日市小学校の子どもたちにこんなお願いをしました。

三日市のいいとこいいもの見つけた！

みなさんが登下校の時や遊んでいるときに見つけた、みなさんだから知っている三日市の「いいとこ」「めずらしいもの」「おもしろいとこ・もの」を教えてください。
例えば…おもしろい石やかわら、大好きなくねくね道、何かに似ている大きな木など。
文章、地図、絵など何でも構いません。一人ひとつお願ひします。



みんなでさがそう



募集期間 11月1日～30日

提出枚数 142枚

学校内掲示 12月6日～22日 下足室前

本当にたくさんの提出がありました。一つひとつが子どもたちの「いいとこいいもの」だと思います。

ぜひ地域の皆さんにもご紹介したいと、公民館のご協力をいただき展示することになりました。

子どもたちの発見はこれから三日市まちづくりを進める中で役立てると思います。

どうか個性豊かな子どもたちのいいとこをご覧ください。

三日市小学校区まちづくり協議会ふれあい部会

まちづくり協議会は市内小学校区ごとに設けられ、より良いまちづくりを進めていくための組織です。当協議会は平成26年9月23日に結成され、味噌一のまちをめざして活動しています。市内でもこの三日市小学校区は特に豊かな自然に囲まれた歴史と文化を誇るまちです。以下を目標にまちづくりに取り組んでいます。

- ・ここに暮らすさんが誇りに思えるまち
- ・ここに暮らす子どもも大人もお互いに支えあえるまち
- ・安全で安心して暮らせるまち

小学校



三日市公民館

安全安心部会

防災無線を活用した放課後放送

三日市小学校では音楽による放課後放送は以前からありましたが、先生方と放送委員会の子どもたちの協力で放送内容を下記のとおりに一新しました。市危機管理課の協力もあり平成28年11月1日から登校日の午後4時に1回(約57秒間)放送しています。

近隣住民の皆さん及びPTAの皆さんへ放送の目的及び放送内容の告知・PRを行ない、町会・自治会の協力で回覧も実施し、三日市小学校の学校だよりにも掲載していただきました。



こちらは三日市小学校 放送委員会です。
いつも 登下校で、私たちを見守っていただき ありがとうございます。
今日もつつかなく、一日が終わろうとしています。
味・香り・一番のまち 三日市
明日も、みんなであいさつ 笑顔いっぱい 三日市

特殊詐欺被害防止活動

特殊詐欺被害は、平成28年1月～11月末現在の大坂府内の認知件数は1484件、被害総額は約48億円、河内長野では24件、4千万円超と過去最悪となっています。

また、全体の約7割が高齢者（65歳以上）の被害となっています。

まちづくり協議会では、これら高齢者に対する告知・啓発を含め、地域全体で被害防止の機運を高めることを目的とした事業を実施させていただいている。

また開催にあたり連合町会をはじめ各団体の皆さんにはご協力いただきお礼を申し上げます。

「特殊詐欺被害防止教室」

平成28年9月22日、フォレスト三日市3階市民ホールにて約40人の参加で開催されました。

連合町会・老人クラブ・社会福祉協議会などの各団体に対するPR・告知の協力依頼の回覧をお願いし、まちづくり協議会でも三日市駅前やフォレスト三日市付近での街頭チラシ配布活動も実施しました。

当日は、大阪府警指導班の詐欺被害防止の寸劇・河内長野警察署生活安全課より被害実例報告などしていただきました。

とてもわかりやすく楽しく学べました。



特殊詐欺被害防止の「川柳」募集

「川柳コンクール」

(応募期間：

平成29年2月13日～3月10日)

特殊詐欺被害防止をテーマとする川柳を募集しました。厳正な審査を行ない、優秀な作品は5月開催の総会にて表彰及び副賞を授与、その後は各所にて発表展示を予定しています。



ふるさと愛部会

三日市小学校区内には豊かな自然や歴史資源が数多くあります。これらを活かし住民の郷土愛を育むため、ふるさと愛部会のメンバー9名で現地確認を行いながら、「三日市名所旧跡めぐり」のマップ作成を進めています。

校区住民はもちろんのこと、当地を訪れる人たちにも三日市小学校区内の名所旧跡とその場所が一目でわかる「地域マップ（三日市名所旧跡めぐり）」です。

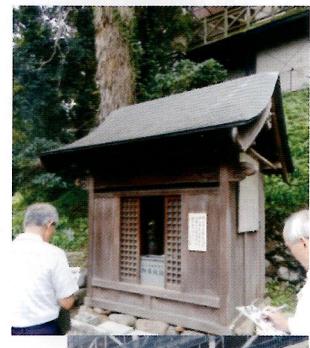
また、校区内には、名所旧跡と合わせ数多くの地蔵尊があり、地域住民と共に歴史を歩んで来ております。そこで、本マップでは、名所旧跡24カ所・地蔵尊14カ所を、所在地を表した地図とともに紹介していますので、一度訪ね三日市の歴史文化にふれてみてはいかがでしょうか。

なお、このマップは、三日市の名所旧跡めぐりをより深く楽しんでいただけるように、校区内の公共施設に置き、希望者に配布する予定です。

マップの掲載場所の確認



事前に打合せをして、マップへ掲載する場所を検討しました。
校区内に広がる名所旧跡の中には、メンバーが知らなかった場所もあり、改めて校区の歴史文化の深さを感じました。
そして、既存地図へ目印を付けて現地確認の行程を決定しました。



現地確認の様子

何日かに分けて、一ヵ所一ヵ所確認して行きました。この日は途中から小雨もぱらつきましたが、全部の場所を確認できました。



編集後記

- 新しいふるさと作りを目指して、いろいろな活動の一端を紹介しています。（多）
- わがふるさと三日市をみんなで盛り上げよう。（え）
- 部会の話し合い、活動内容の細部の詰めの時に参加してなくて四苦八苦しました。（J）
- まちづくり協議会の皆さんとの活動をたくさんの人々に知ってもらえた嬉しさです（み）
- 今後も地域の将来像を見据え、地域資源を有効に活用していきたいと思います。（良）

三日市地区高野街道沿道コーナー

味香一だより第4号特集
平成29年3月15日発行

寺子屋から三日市小学校開校までの教材でみる ふるさと教育発展史

文責：竹鼻良介

◎寺子屋とは

鎌倉・室町時代の貴族・僧侶・武家の子弟は成長する前の幼少期を寺院などに起居して、一般教養としての学問・詩歌などを習得する風習がありました。しかし庶民が習う寺子屋とは江戸時代の中期(享保年間西暦1716年以後)の一般庶民の教育のことをいいます。

大阪ではその中心部で享保9年(西暦1724)徳川幕府許可のもと「学問所(私塾)」が設置され、主として儒学・蘭学が教えられました。その後に庶民の教育機関として僧侶が師匠となり、手習いする者を寺に集めて、各地域で始めたので「寺子屋」と言い、教えを受ける子どもたちを「寺子(生徒)」と呼びました。

寺小屋が普及するようになって師匠も僧侶だけでなく、武士・神官・医者・村役人・賢女が「お師匠さん(後の先生)」となり、寺や師匠宅で寺子を4~5人から多くて30人程度を集めておこなわれました。つまり、一般庶民が農業及び商業の傍ら、「読み・書き・そろばん」を勉強するためのものでした。女性の師匠は、詩歌・裁縫・生花・茶の湯なども教えたようです。寺子屋の師匠は「手習い師匠」ともよばれ、寺子に対するその権威は大きく、時には厳しく教え、また父兄・家族はそういう教育方針を喜び好む風潮がありました。

寺入り(入塾)の次期は特に定まっていませんが、五節句の節目時が選ばれていたようです。寺入りの年齢は早くても5~6歳、遅くても7~8歳で、修業年数は短くて3年長くて7年でした。

手習いは「かな」から始まり、次に「国尽」続いて「商売往来」「消息往来」「庭訓往来」などを学んだようです。特に三日市地域は宿場町でしたので、旅籠・市場商人にとっても手習いは必要なことでした。子どもだけでなく父母が一緒に寺子屋に通い「読み・書き・そろばん」を学び、女性たちは「お針(裁縫)」を習ったことが実際に使われていた現存する教材で判ります。



旧三日市小学校正門



◎三日市での寺子屋開所

三日市での寺子屋について当時の教材及び資料(個人所蔵)を紹介しながら、現在に続く地域の教育史を考えていきたいと思います。

江戸幕府は三日市に高野街道三日市宿を設置し、宿内に三日市駅と上田駅を設けました。堺と紀伊見峠間を人と馬で結ぶ高野参詣者の往還筋(往来道)でもあり馬次駅として街道筋には旅籠・商店が軒を並べ、多くの人々の往来で賑っていました。

その旅籠・商店の商いには「読み・書き・そろばん」がどうしても必要でした。そこで、地域の村役人や僧侶が子どもたちを集めて幼少期から寺子教育を始めました。父母の中には字が読めず書けず計算ができない人もいて、寺子屋で教えたといわれています。また特に女性には当時の必須条件のお針(裁縫)も教えていました。三日市での寺子屋教育には極めて質の高い教材が用いられていました。

その教材として、「読み物」としては「商売往来」「地方目録」「諸職往来」「消息往来」「国盡」「村盡」「庭訓往来」「論語」「中庸」「大学」「女大学」「今川状」「童子往来」など主として往来物と孔子の教え、また「村名」「国尽」が用いられていました。

また「書き物」としては「諸通文鑑」「千字文」「百人一首」「幼学以呂波歌教鑑」「文書」「和漢名数大全」などが用いられ、手習い(習字)が中心でした。

「そろばん(現在の算数)」は「算法早車大全」「算法図解大全」「銀目」などの教材が用いられていますが、主にはそろばんと尺度・容量・重量・面積・単位などの内容となっています。

さらに、参考書や辞書としては「廣益正字通」「字通」「永曆雜書天文大成綱目」「日本外史」「国史畧」などが使用されていて、現在では考えられないほど難しい教材を用いていました。

◎各所で小学校の開校

寺子屋教育は幕末まで続きましたが、江戸幕府が滅亡し新政府文部省により明治5年8月に「小学教則」が制定され、わが国の教育制度(学制頒布)が発足しました。この前文には「邑ニ不学ノ戸ナク、家ニ不学ノ人ナカラシメン事ヲ期ス」と書かれています。

また当時の管轄だった堺県庁が明治5年に発刊した「学問乃心得」の第4条には次のように書かれています。
「学校ヲ建ルハ教化ヲ盛ニシ人材ヲ教育スルニアリ 蓋シ其教育ト云ハ人々心ヲ諸科目新ノ学ニ用ヒ智識ヲ世界ニ求ルニ至テハ人ハ日ニ一日ヨリ智ヲ増シ器ハ日ニ一日ヨリ功ニ趣キ物産ヲ興シ…以下略」

さらに同じ年の三日市村の小学校の創立書である「学業奨励ニ関スル被仰出書」には、「其身ヲ立テ、其産ヲ治メ、其業ヲ昌ニシテ、以テ其生ヲ遂ル所以ノモノハ他ナシ、身ヲ修メ智ヲ開キ才芸ヲ長スルニヨルナリ。而テ其身ヲ治メ智ヲ開キ才芸ヲ長スルハ、学ニアザレバ能ハズ、是レ本校の創立ノ創始トス」とあります。

明治6年6月に各地で小学校が開校されましたが、三日市地域でも同年6月15日に上田増福寺の庫裏を校舎として第八番小学校(後に上田小学校と改称)が開校しました。現三日市小学校の前身となります。当時の上田村・三日市村・小塩村・加賀田村・高向村・新町村・片添村の7カ村から生徒を集めました。



当時の小学校教育の特色は中央集権的なフランスの教育制度と自由主義のアメリカ教育制度の模倣であり、上田村の第八番小学校開校時に使用した「小学読本」(明治6年3月発刊)を見ると、英語をそのまま日本語に直訳した文書とさし絵なっています。

例えば「小学読本(卷二)」の最初の文章に「此女児は、人形を持てり、此人形は愛らしき人形なり、汝は人形を好むや然り、我は甚だこれを好めり、一人の男児は人形を持たずして鞭をもてり、人形も亦衣装を着て靴をはきたり…以下略」と書かれており、さし絵は洋風の窓に人物のみ日本人の姿となっています。

開校当初の教科書としては「地理初步」「萬國史略」「童蒙单字解」「算術書」「物理階梯」「日本地誌略」「日本略史」「人体問答図解」「皇国度量法」「修身児訓」などが使用されております。

また当時の教師の「虎の巻」とも言うべき「小学教授法」(明治8年発刊)の表題には「1、此書ハ六歳ノ児童ヲ初めて学校ニ入りタルモノヲ教導スルモノナレバ先ツ五十音ノ呼法ヲ教エ次ニ日用器具ノ名目等ヲ教フルモノナリ 故ニ俚言ヲ避ケズ唯童ノ解シ易キヲ務ム」(1、問答復習ノ仕方ハ大概ヲ舉クルト云ヘドモ又教師ノ意ヲ以テ取捨増減アルベシ)とあります。

その後は五十音の教え方から順に書かれており、大変興味深いものです。人としての生き方、考え方は現在の教育とは少し乖離があるように思います。

◎三日市小学校の沿革

三日市地域に初めて小学校ができたのは、上記にも記載したように明治6年6月15日で、上田の堂ノ辻で高野街道三日市宿内上田駅・往還筋(往来道)の増福寺の庫裏を借用して開校されました。

上田小学校の沿革誌に「明治6年6月15日本村字堂ノ辻増福寺ヲ借用、第八番小学校ヲ開設スル、但堺県出仕矢野千一郎、七等助教野村勘七、一等助教飯田舜乘ヲ聘シ、開校式ヲ挙行ス、是ヲ本校の創立ノ創始トス」と書かれています。

明治8年5月には堺県から「学校の所在地名、上田村を持って校名となすべき」とのお達しにより、上田小学校と改称されました。それ以降、昭和4年に「三日市尋常小学校」と改称されるまで、50数年間も上田小学校が続きました。すなわち三日市小学校も今年で143年の歴史を刻んできることになります。